

視能訓練士学科 授業科目概要(2024年度)令和4・5年度入学生

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修学年	コマ数	授業時数	単位数	授業形態
基礎分野	科学的思考の基礎分野	14	科学的・理論的思考力を育て、人間性を磨き、自由で主体的な判断と行動を培う。生命倫理及び人の尊厳を幅広く理解する。国際化及び情報化社会に対応できる能力を養う。	1	英語(外国語)	外国人の増加にともない、国際共通語である英語でのコミュニケーションをとる場面も多くなり、英語の必要性が高まっているため、簡単な英会話をできるように学習する。	小林昌人	—	2	15	30	2	講義
				2	基礎光学	視能訓練士に必要な物理学的知識を学習し、特にレンズ計算に必要な光学系の波動、波の性質、光の特性の基本的なところを重点的に学習する。	佐野智久	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	1	8	15	1	講義
				3	現代倫理	社会におけるさまざまな規範の根拠について、哲学の誕生から宗教の発展、現代の動向を講義や演習、グループワークを通して学ぶ。	齋藤照安	高等学校校長及び専門学校校長としての実務経験	1	30	60	4	講義
				4	心理学	心理学を身近なものとしてとらえられるようにし、それを自身の生き方に生かしていけるようにすることを目標とし、心理的配慮などを考慮した考え方もできるように学習する。	土屋廣人	児童相談所における臨床心理士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				5	ペン字	日頃から正しい文字を書く習慣をつけ、実社会においても読みやすく美しい字が書けるように学習する。	澤本美佐乃	—	1	15	30	2	講義
				6	教育学	教育の意味を考えながら、人間の発達にとって教育作用を理解し基礎知識の習得をめざし、医療従事者としての生涯にわたり学び続ける必要があることの重要性を学ぶ。	後藤明子	—	1	15	30	2	講義
				7	キャリア教育	今後職業人として活躍するために必要なスキルを身につける	原木伴美	—	1	8	15	1	講義
専門基礎分野	人体の構造と機能及び心身の発達	8	人体の構造と機能及び心身の発達を系統立てて理解する。	8	解剖生理学	眼科を学ぶ基礎知識として、正常な人体の働きを知り、基本的な疾患の理解する。	松岡哲平	総合病院における医師(内科医)としての実務経験	1	30	60	4	講義
				9	解剖生理学演習	視能訓練士に必要な解剖・機能・心身の発達を学ぶ。グループ演習による模型・作図・心理発達検査・高齢者疑似体験を行い理解を深める。	佐野智久	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	1	8	15	1	演習
				10	保育学	視能訓練士は、子どもの心身の発達を理解し、発達や心理に合わせた検査や訓練を行う必要があるため、子どもの心身の発達を理解し、視能訓練士として、心身の発達に適した検査・訓練法を選ぶことができるよう学習する。	杉山有美	幼稚園・保育園における幼稚園教諭及び保育士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				11	人間発達学	ヒトの誕生から死に至るまで続く発達と変化を、解剖生理的、心理的な面などから、正常過程を理解した上で、視能訓練士として、対象者の理解をできるように学習する	本多祥子	総合病院における看護師としての実務経験	2	8	15	1	講義
	疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	10	健康、疾病及び障害について、予防と回復過程の促進に関する知識を習得し、理解力、観察力及び判断力を養う。	12	病理学	疾患の予防や回復の促進には、病因、病態、病理の理解が不可欠である。視能訓練士は、日々、様々な眼疾患者の検査を行う。視能訓練士に必要な、基本的な病理の知識を習得することを目標とする。	松岡哲平	総合病院における医師(内科医)としての実務経験	1	8	15	1	講義
				13	臨床医学概論	眼科疾患は、他の全身疾患に起因するものがある。また、他の疾患にも罹患していることもある。眼科外来の医療従事者の一員である視能訓練士として、種々の疾患の概要を学習し、患者の全身状態、疾病の特質を理解することを目標とする。	松岡哲平	総合病院における医師(内科医)としての実務経験	1	15	30	2	講義
				14	健康と保健	健康および疾病の予防の基本的知識を学ぶ。また、自らの健康と疾病の予防についても理解を深める。健康の維持、重篤な疾病の予防として救急法についても学ぶ。	三嶋秀子	総合病院における看護師・精神保健福祉士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				15	薬理学概論	疾病の治療には、手術などの観血的治療法以外に薬物治療が行われる。また、眼科では検査のための薬剤も投与される。この講義では、視能訓練士として必要な基本的な薬剤の作用機序と効果、および副作用を理解することを目標とする。	永野繁光	総合病院・調剤薬局における薬剤師としての実務経験	2	15	30	2	講義
				16	障害の理解	脳の障害部位における機能障害を理解し、認知障害も含め、障害の原因・病態評価などを学習する。そして、高次脳機能障害における視覚機能への影響も学習する。	石田麗	障がい者支援施設における介護福祉士としての実務経験	3	8	15	1	講義
				17	全身疾病学	眼科に関わりのある、全身疾患・症候群を理解し、眼科検査をするときに役立てるように学習する	本多祥子	総合病院における看護師としての実務経験	2	15	30	2	講義
	視覚機能の基礎と検査機器	14	視覚の情報処理過程を系統的に学び、視覚機能の疾病や障害を総合的に検出する視覚機能診断機器の原理と操作及び検査・測定方法の基礎理論と技術を習得し、疾病と障害との関連を学習する。	18	視器の解剖・生理・病理学	視覚の情報処理過程を視器の解剖と生理を基盤にし系統的に学習する。また、疾病の理解と障害の検出に必要な視覚器の病理についても学習する。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	4	講義
				19	視覚機能学基礎	視覚機能検査の基本的理論を系統的に学ぶ。視力、視野、色覚をはじめとする視覚の情報処理過程の基本的理論と視覚機能検査について学習する。検査・測定方法の基礎理論を習得し、疾病と障害との関連を学習する。	鈴木ほまれ	総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				20	視覚機能学基礎演習	視覚機能検査機器の原理と操作を学習する。グループでの演習により検査・測定方法の基礎理論と基本的技術の習得を目標とする。また、障害を総合的に検出することを演習し、技術を習得する。	☆太田陸 星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	4	演習
				21	生理光学	視覚の情報過程における眼球の光学的な役割の基礎理論を学習する。光の性質、屈折の原理を理解し、眼屈折系の基本的な理論を学習する。また、屈折異常の理論と屈折矯正に必要な、矯正レンズ、調節についても学習する。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修学年	コマ数	授業時数	単位数	授業形態
保健医療福祉と視能の害の念	7		保健医療福祉の推進のために、心身の状態を理解し、視能訓練士が果たすべき役割について学習する。併せて、地域社会における関係諸機関との調整及び教育的役割を担う能力を育成する。	22	生理光学基礎演習	グループでの演習形式で、光の性質、屈折の原理を学習する。実際に眼球光学模型や光学機器を用い、光の性質とレンズの性質の理解を深め、視覚の情報処理過程における眼球光学系の役割を理解することを目標とする。	☆太田陸 村上綾	診療所における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	演習
				23	公衆衛生概論	公衆衛生学は、社会や集団を対象にした医学である。個人の健康を対象にした臨床医学に対し、社会全体から心身の疾病の予防や健康増進に係わる。保健医療、社会福祉、環境保全など多岐にわたる内容から構成されている。基本的事項を理解するとともに視能訓練士が果たすべき役割について考える力を培うことを目標とする。	荒尾浩子	保健師及び看護学校講師としての実務経験	1	15	30	2	講義
				24	視覚リハビリテーション	リハビリテーション職種である視能訓練士が担う保健医療福祉の推進について学ぶ。また、視能訓練士が知っておくべき障害受容の心理や地域社会におけるリハビリテーション職種としての役割について理解する。また、ロービジョンケアの具体的な手法について学ぶ。	太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	3	8	15	1	講義
				25	視能訓練士の役割	医学は独立して行われるものではなく、地域社会の関係諸機関との連携が重要である。医療における他職種との連携・役割、地域社会における様々なサービスに関して視能訓練士として知っておくべき関係法規についても学ぶ。また、保健医療福祉の推進のために視能訓練士が行うべきことについて考える力を養う。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
				26	ロービジョン学	ロービジョンの基礎を学び、実際にどのように視能訓練士が関わっていくのか理解し、どのような道具が使用されて、ロービジョンに対応しているかも学ぶ	太田陸	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
基礎視能矯正学	24		視能矯正の枠組みと理論を理解し、系統的な視能矯正を構築できる能力を養う。	27	基礎視能矯正学1	物を見るための仕組み、眼を動かす仕組みについて学び、弱視、斜視の基礎となる両眼視機能の基礎を学ぶ。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				28	基礎視能矯正学2	視能矯正学の基礎となる正常な視機能の発達と両眼視機能の発達を学ぶ。また、障がいが生じる理論を概観し、視能矯正学の基本的知識と理論を身につける。。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	4	講義
				29	基礎神経眼科学	神経眼科学の基礎となる神経や眼筋の構造と機能を学ぶ。眼球運動経路の解剖・生理の基礎を理解し、外眼筋の作用と眼球運動の神経眼科学的基礎事項を学習する。	佐野智久	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				30	基礎視能矯正学演習1	視力検査および屈折検査について演習を通して理解を深め、実践力を身につける。また、調節機能、明視域についても理解する。	☆鈴木ほまれ 佐野智久	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	4	演習
				31	基礎視能矯正学演習2	正常な両眼視機能検査、異常な両眼視機能、眼位の検査について理解する。視能矯正に必要な基礎知識を実践できるような機器を用いた演習を行う。	☆太田陸 佐野智久	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	演習
				32	基礎視能矯正学3	視能矯正の理念、歴史など視能矯正の枠組みについて学習する。また、系統的な視能矯正を構築できる能力を養う。	☆鈴木ほまれ 太田陸	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				33	基礎視能矯正学4	視能矯正の理念、歴史など視能矯正の枠組みについて学習する。また基礎視能矯正3で学んだものを生かして、より系統的な視能矯正を構築できる能力を養う。	佐野智久	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				34	基礎視能矯正学5	視能矯正の理念、歴史など視能矯正の枠組みについて学習する。また基礎視能矯正4で学んだものを生かして、より系統的な視能矯正を構築できる能力を養う。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	2	講義
	20		視能検査の専門的知識と技術を習得し、評価について学習するとともに、職業倫理を高める。	35	視覚生理学1	視覚機能の基礎となる視力、視野、色覚、光覚などの理論と機能を理解する。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				36	視覚生理学2	視覚生理学2で学んだ、視覚機能の基礎となる視力、視野、色覚、光覚の理論と機能をより理解を深める。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
				37	視能検査学	眼科一般検査の専門的知識と技術を修得する。検査結果の分析、評価の方法を学ぶ。また、視能訓練士としての職業倫理について理解し、医療技術の専門職業人としての自覚を養う。	村上綾	診療所における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				38	視能検査学演習	視能訓練士が行う眼科一般検査を中心に演習形式で知識のみならず、実践的な技能を身につける。また、評価についてレポート作成し適切な評価の仕方を修得する。	☆太田陸 星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	演習
				39	生理光学演習	他覚的屈折矯正、自覚的屈折矯正、プリズムによる眼位矯正など生理光学的矯正を学習し、演習による実践力を身につけることを目標とする。	☆太田陸 星野貴大	診療所における視能訓練士としての実務経験	1	30	60	4	演習
				40	視覚生理学演習	視覚生理学的な種々の検査を演習し、実践力と評価の仕方を修得する。	☆星野貴大 太田陸	診療所における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	演習
専門分野	視能障害学	16	視能障害の予防と治療の観点から、種々の障害を理解する。	41	神経眼科学	脳神経の構造と視路及び眼球運動経路の解剖・生理を理解し、視交叉より末梢の視路障害核上性障害、視神経・外側膝状体・皮質障害に関して学習する。	星野貴大	医師(眼科専門医)として臨床における実務経験	2	15	30	2	講義
				42	視能障害学演習1	種々の眼疾患によって障害される視機能についての検査法や治療による改善について学ぶ。	☆太田陸 鈴木ほまれ	総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	30	60	4	演習
				43	視能障害学演習2	斜視や弱視の両眼視機能障害について、今まで学んだ知識を総合的に融合し理解を深める。問題解決的手法を用いた演習で種々の障害の実践力を身につける。	星野貴大	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	2	演習

科目区分		必要単位数	教育目標	番号	授業科目名	授業科目概要	担当者 (☆主担当)	実務者教員	履修学年	コマ数	授業時数	単位数	授業形態
				44	眼疾病学総論	眼科的疾患及び眼科関連全身疾患について基本的な部分を学習し、疾患の名称、病態を理解する。	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				45	眼疾病学各論1	眼科的疾患及び眼科関連全身疾患について解剖学的部位に系統立てて学習し、視能障害の予防と治療を理解する。	中嶋茂雄	診療所における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				46	眼疾病学各論2	今まで習得した、眼科疾患の病態、治療をすべて復習し、知識をより深める	星野貴大	総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	2	講義
	視能訓練学	16	視覚発達促進や種々の視能障害に対する矯正、訓練、指導及び管理の立場から必要な知識と技術を習得する。また、感染症に対する対応と救急対応についても学ぶ。	47	弱視・斜視訓練学	弱視・斜視の訓練に必要な検査方法および訓練法の理論と実践を学ぶ。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				48	視能矯正学1	共同性斜視、麻痺性斜視のほか特殊斜視の臨床的特徴と検査・治療法について学習する。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	15	30	2	講義
				49	視能矯正学2	視能障害に対する矯正、訓練、指導および管理の立場から必要な知識と技術を習得する。	鈴木ほまれ	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	15	30	2	講義
				50	視能訓練学演習1	視覚発達促進や種々の視能障害に対する矯正、訓練、指導を科学的根拠に基づいて行う技術を学習する。また、業務の管理について理解し、適切な視能訓練を構築することを学ぶ。	☆鈴木ほまれ 佐野智久	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	演習
				51	視能訓練学演習2	眼科チームの一員として視能訓練を行うスキルを身につける。また、視能訓練士として必要な感染症に対する対応と救急対応についても学習する。	☆鈴木ほまれ 佐野智久	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	演習
	臨地実習	14	基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	52	臨地実習1	眼科施設において、現場の視能訓練士の下で、基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	太田陸	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1		45	1	実習
				53	臨地実習2	眼科施設において、現場の視能訓練士の下で、基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	村上綾	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	2		45	1	実習
				54	臨地実習3	眼科施設において、現場の視能訓練士の下で、基本的な視能矯正の実践技術の能力を養い、患者との人間関係から共感的態度を学ぶ。また、医療チームの一員としての責任と自覚を養う。	星野貴大	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	3		540	12	実習
	その他	16	本学独自のカリキュラム内容であり、今後職業人として活躍するために必要な内容を取り入れ、職業人としてのスキルを強化する。	55	ゼミナール1	各グループで設定したテーマに沿って、調査などをおこない、その結果をまとめる	太田陸	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	1	15	30	2	講義
				56	ゼミナール2	各グループで設定したテーマに沿って、調査したその結果をまとめ発表する	☆鈴木ほまれ 村上綾	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	2	30	60	4	講義
				57	ゼミナール3	各グループで設定したテーマに沿って、調査したその結果をまとめ発表する	星野貴大	総合病院・診療所における視能訓練士としての実務経験	3	30	60	4	講義
				58	国試対策	国家試験の合格に向けて、視能訓練士の知識を総まとめする	☆鈴木ほまれ 太田陸 星野貴大 村上綾	大学病院・総合病院における視能訓練士としての実務経験	3	60	120	8	講義
				59	就職指導	就職活動は自分の仕事を中心とした人生(将来)を考え、設計する為の重要な役割を果たし、自己実現に向けた第一歩であることを理解させる。自己を知り、就職先を知って、いかに自分を高く売り込めるかを学ばせる。	原木伴美	—	2	15	30	2	講義

合計	1,121	2,865	163
実務経験者合計	1,053	2,730	154 94%